

2025-26
第19回例会
2026.1.5

国際ロータリー第 2530 地区 県北第一分区

福島南ロータリークラブ会報



会員 77名中 43名出席 55.84% 修正 62名80.52%メイクアップ 19名
例会会場/ウエディング・エルティ TEL 024-535-6188 月曜日 12:30~

◆会長あいさつ ホストクラブ 福島21ロータリークラブ 渡辺 浩子会長

皆さま、新年あけましておめでとうございます。

本日は、福島市内ロータリークラブ合同新年会にご臨席を賜り、誠にありがとうございます。

福島県知事 内堀雅雄様、福島市長 馬場雄基様には、ご多忙の中ご臨席を賜り、また日頃より福島の未来のためにお力を尽くしていただいておりますこと、心より感謝申し上げます。

本日のホストクラブ、福島21ロータリークラブ会長の渡辺浩子でございます。クラブを代表し、新年のご挨拶を申し上げます。このように市内7つのクラブが一堂に会し、多くの皆さまと新年を迎えられますことに、ロータリーの友情と結束の深さをあらためて感じております。

今年、私たちは東日本大震災から十五年という大きな節目を迎えます。

あの日からの年月には皆さまお一人おひとりに、それぞれの記憶と想いが刻まれていることと思います。震災直後、困難の中にあつた私たちを支えてくれたのは、世界中のロータリアンから寄せられた温かな支援と、変わらぬ励ましの言葉でした。国境を越えたその友情と奉仕の心が、私たちに前を向く勇気を与え、復興への歩みを力強く後押ししてくれました。そのフェロウシップの精神を私たちは決して忘れてはならないと感じております。

この15年の経験を、子どもたちや、これからの時代を担う若い世代へ、希望と誇りとして手渡していくこと。それこそが、支えてくださった方々への恩返しであり、私たちロータリアンに託された大切な役割ではないでしょうか。そのような中、今年、福島に明るい話題も生まれています。日本サッカー界のレジェンド三浦知良選手が、ユナイテッドFCへの入団が決まりました。また、尚志高校が高校サッカーでベスト4進出を果たしました。そのチャレンジ精神は、世代を超えて、地域に前向きな力を届けてくれるものと感じております。7つのクラブには、それぞれの個性と大切にしてきた奉仕があります。そのすべては「誰かを思う気持ち」から生まれ、地域を支え、未来へとつながる力となってまいりました。本年は午年です。前へ前へと進み、新しい道を切り開いていく年と言われています。どうか皆さまが、それぞれの思いを胸に、一歩踏み出す一年となりますことを願っております。本年が皆さまにとりまして希望と挑戦に満ちた一年となり、子供たちの笑顔あふれる福島が、さらに輝きを増していきますように。「エンジョイロータリー！テイク・アクション！」を胸に、共に切磋琢磨し、前進してまいりましょう。本日は米山記念奨学生、青少年交換学生も参加しております。母国を離れ福島で経験と学びを深めています。どうぞ言葉を交わし、交流を深めていただければ幸いです。皆さま並びに各ロータリークラブの一年が、健やかで実り多きものとなりますことを祈念し、年頭のご挨拶といたします。

本日は誠にありがとうございました。



◆来賓挨拶 福島県知事 内堀雅雄知事

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。震災と原発事故から間もなく15年を迎えようとしております。この間、県民の皆様の懸命な努力と国内外からの温かい御支援により、福島県は着実に復興への歩みを進めてまいりました。昨年は、全国新酒品評会において、3年ぶりに金賞受賞数日本一に返り咲いたほか、東京2025デフリンピックでは、本県復興のシンボルであるJヴィレッジにおいてサッカー競技が開催されるなど、明るい話題が続きました。また、大阪・関西万博などを契機として、本県の復興状況や様々な魅力を国内外に広く発信することができました。このような中、避難地域では、特定帰還居住区において、除染等が進められているほか、震災後、55の国・地域で行われていた県産農林水産物の輸入規制が5つの国・地域まで減少するなど、これまで続けてきた挑戦の成果が目に見える形となって現れてきております。一方で、原子力災害に伴う様々な課題に加え、急激に進む人口減少など、いまだ複雑で困難な課題が山積していることから、今後も本県の復興・再生と「福島ならではの」地方創生の実現に向け、全力で挑戦を続けてまいります。まず、震災と原発事故からの復興・再生につきましては、令和8年度から第3期復興・創生期間がスタートします。このため、避難者の帰還や生活環境の整備、産業・生業の再生、風評の払拭と風化の防止などに取り組むとともに、復興の進捗に伴って生じる新たな課題やニーズにもきめ細かく対応してまいります。また、地方創生、すなわち人口減少対策につきましては、昨年「ふくしま共創チーム」を設立したところであり、オールふくしまで共に考え共に挑戦することにより、持続可能で豊かなふくしまを目指してまいります。今年、福島県が誕生して150年という本県にとって非常に重要な年です。この節目の年に開催する「ふくしまデスティネーションキャンペーン」や「大ゴッホ展」を通じて国内外の多くの方々に復興が進む「福島の今」と本県の魅力を「見て」「触れて」「感じて」いただけるよう準備を進めてまいります。今後も、県民の皆様と共に、挑戦を続けてまいりますので一層の御支援、御協力をお願い申し上げ、新年の御挨拶といたします。



◆来賓挨拶 福島市長 馬場雄基市長

新年あけましておめでとうございます。

市内ロータリークラブの皆様には長年にわたり、崇高な理念と社会奉仕の精神の基に、社会貢献を活動が続けておられますことに対し、心から感謝と敬意を表します。さてこの度、市長という重責を担わせていただくこととなりました。県都福島未来を切り拓くべく、初心を忘れず、希望と情熱をもって市政に臨んでまいります。今年、福島市が全国から大きな注目を集める一年となります。春にはデスティネーションキャンペーンが行われ、福島の魅力が日本中に発信できる絶好の機会が訪れます。そして世界的に画家に触れられる「大ゴッホ展」の開催も控えており、国内外から多くの方が福島に足を運ばれることが期待されています。まさに福島に光が当たる一年です。この追い風を活かし、市民の皆さまとともにまちの活力へとつなげていきたいと考えております。そのためにも本年を「新しいまちづくり」の本格的スタートの年といたします。分かりやすいデータをお示しし、透明性の高い根拠に基づく政策判断を行う「データ行政の確立」と、市民の皆様の声を直接伺う対話集会や意見交換会の開催を担う「未来戦略本部の設置」この二つの機能を掛け合わせ、政策実行の土台として、市民の皆様とともに未来図



を描ける市政へと進化させてまいります。もとよりロータリアンの皆様には地域社会のリーダーとして各分野で活動に取り組み、その思いやアイデアはまちづくりをけん引する大きな原動力となっております。福島市の潜在力を最大限に引き出し「ともに前へ」進めるために皆様にも引き続きお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

本年が皆様にとって健康で幸多き年となりますよう心からご祈念申し上げます。

◆ 祝宴



◆ 2次会

